

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990400111		
法人名	ウェルエージング株式会社		
事業所名	グループホームやまなみ		
所在地	栃木県佐野市町谷59-1		
自己評価作成日	平成26年10月20日	評価結果市町村受理日	平成26年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成26年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みかも山を南にのぞみ、天気の良い日は、かたくりの里への散歩をしている。小規模との併設の良さを生かしレクリエーションを提供し、利用者は自由に行き来し交流をしている。又、介護度が比較的重くご自身の思いを伝えることができない方もおり、行動や表情などを観察しながら入居者様の思いに応じられるよう、寄り添う心、思いやる心を大切に、ゆったりと安心して過ごせるような環境作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は住宅地一角に位置し、近隣には自然公園や花センター・フルーツパークがあり、自然環境に恵まれ四季折々の季節を満喫出来る。ショッピングモールや道の駅などの施設も近く、利便性の良い環境である。併設の小規模多機能型居宅介護事業所とは、利用者同士の日頃からの行き来や合同で行事を実施するなど交流が盛んで、職員の利用者支援も馴染みの関係が構築されている。ボランティアを積極的に受け入れ、2ヶ月に1度の割合で、三味線や唄・舞踊・フラダンス鑑賞等を楽しんでいる。また、近隣散歩を行って地域との交流を深めている。職員は、コミュニケーションを大切にしており、笑顔や会話が絶えず、和やかな雰囲気の中で、利用者の気持ちに寄り添った支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設を利用している入居者様を通し制度について職員には説明はしている。	法人の運営理念をもとに、事業所独自の理念「相補交流・信頼関係(受け止め補い合うやりとりが育む関係)」を作り、職員で共有している。申し送り時等に話し合い、日々のケアで意識づけながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、運営推進会議や避難訓練には地域の人に出席してもらって理解や協力、意見をもらっている。又近隣への散歩では近所の人との交流がある。	自治会に加入しており、地域住民との交流を図り、緊急時の協力体制も出来ている。地域で活動するボランティアの受け入れや散歩中の挨拶、野菜のおすそわけなど、日頃からの交流が盛んで、地域とのつながりを継続しながら利用者が暮らし続けられるよう支援をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族からの認知症に関する質問について説明をして理解を深めて頂くよう努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の人や家族などから意見や要望、評価などを頂いてサービスの向上に生かしている。	運営推進会議は2ヶ月毎に併設されている小規模多機能と合同にて開催している。参加メンバーは家族(全員に声掛けをしている)利用者代表・自治会長・民生委員・地域包括センター職員等の参加により開催している。事業所の状況報告のほか、参加者からの要望・助言等があり、運営や利用者支援の向上に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	多様なニーズについて対応上、わからない時には、市の担当者に電話して相談している。	市担当者との顔なじみの関係づくりを大切にしている。重度利用者に対する入浴の対応など、具体的な現場の実情の課題解決に向けた相談をし、アドバイスももらっている。また、市のグループホーム連絡協議会に参加し、情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言を事業所に掲げ、個々のケースについて職員間で話し合いながら、拘束しないで安全を守る方法はないかを考え行っている。	身体拘束の内容やその弊害を認識しており、言葉による拘束も含めた身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。利用者の転倒リスクなどの事例に基づき、対応の実践を兼ねながら、学習の機会を設け、安全性を重視しながらも声掛けに配慮した支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力や一方的な介護も虐待につながる危険性があることを職員には随時指導している。		

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について当施設を利用している入居者様を通し制度について職員には説明はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の時はご家族に分かるよう説明し、疑問点には答え理解した上で解約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた時や電話連絡をした際に、要望を聞くよう心がけている。内容によっては職員に伝達しケアに生かしている。	運営推進会議時の家族からの意見や要望等の確認に努めているほか、家族の面会の際に声をかけをし、意見等を聞く機会を設けている。連絡帳も活用している。出された意見・要望等は前向きに活かし、サービスの質の向上につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや必要に応じて話し合いの場を設けて職員全員から意見や提案を聞いて日頃の業務に生かしている。	職員間の連絡帳の活用で情報を共有し、話し合いの機会を持っている。管理者は職員から意見や提案を聞き、日々のケアや運営に反映している。また、外部研修参加後の伝達研修で情報を共有し、日頃の支援や業務に活かしている。	職員全体でのミーティング時間の確保が取れず、連絡帳の活用などで職員意見を反映する工夫をしているが、時間帯の調整や利用者の見守りをしながらなど、短時間でも全体で意見交換ができる機会を設け、職員意見の吸い上げが多くなるような取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が生き生きと向上心を持って働けるよう職員の意見を聞きながら環境や条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で勉強会をしたり、事業所外研修にも本人の希望を聞いて参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の施設長会議に出席し、情報交換しケアの向上につながる様取り組んでいる。		

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階で必ず本人と会い、話を聞きながら、不安や要望を伺い、サービスの内容について丁寧に説明することによって、安心してサービスを利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	登録時、契約時に家族と面会し介護上の不安や要望を聞く機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が、今困っている事に対してサービス内容の説明や利用方法などを話しながら、ご本人、ご家族が安心して利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	手作りおやつを一緒に作り食べたり、食事の後片付けも一緒に行うよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の想いや様子などを、面会に来た時に話しご家族との関わりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人が気軽に面会できるよう支援している。又、ご家族や知人との食事などの外出も自由に出来る様支援している。	家族等と馴染みの場所に出掛けたり、食事や美容室等に行く等関係性が途切れないように支援している。自宅にて可愛がっていたペットとの交流ができるようにペット連れでの面会もできる。一人ひとりのかけがいのない場所やつながりの関係継続への支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の相性を考えお互いが笑顔で過ごしている。時には、職員が入り、会話のきっかけ作りをしながら入居者様同士が支えあえるような支援に努めている。		

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と話す時間を作り希望などを聞くようにしている。又、表情や態度、反応などから本人本位に検討している。	利用前のアセスメントと日頃の言葉や表情等から真意を推し測り、思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合でも、声かけをして信頼関係を築き、表情等から思いを汲み取り、利用者の視点にたって職員間で意見を出し合い、本人本位に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前のアセスメントと利用が開始してから利用者や家族との会話などを通して考える様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録などの情報を全職員で把握できるよう、職員間で情報を伝えあっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には面会時や体調の変化時連絡し、報告して介護計画の見直しを図っている。	本人及び家族のニーズを踏まえ職員の気づきや提案等も参考にして具体的な介護計画を作成し、日々の支援に反映させている。見直しは概ね6ヶ月としているが、状況に変化が見られた場合には家族や医師とも相談しながら随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をし、問題点があった時には職員で話し合い、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と一緒に外出や外食をしている。		

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや訪問美容業者などとの交流を通し、楽しみのある生活が送れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の今までのかかりつけ医との関係を大切にし、今後のことも相談しながら、受診の支援も希望により行っている。	以前からのかかりつけ医での受診を支援している。家族に日々の生活状況を伝えて受診しているが、家族対応が困難な場合は職員が同行をしている。家族との受診結果や情報の共有に努めている。往診に来てくれるクリニックがあるほか、眼科・歯科等も家族・職員等の支援にて行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配薬と受診介助を担っている。朝夕の申し送り時に送られる利用者の体調や変化などが看護師に伝わるようにしている。必要時には受診介助もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者入院の際には利用時の状況報告を行い病院からは退院時サマリーにて情報提供を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを希望され看取り方針の説明後同意にて方針を共有し状況変化がみられた場合は同意内容の確認を何度も話し合いをしている。	看取りの指針について利用契約時に家族と十分に話し合い、意思確認同意書を作成している。重度化に伴い話し合いを重ね、ケアのあり方や家族の思いを再確認している。家族との連絡を密にし、医師との連携体制を構築しながら終末期へ向けた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事や事故に備えてマニュアルを用意している。AEDを導入し講習会を実地している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実地している。近所の人に参加協力してもらい火災通報と同時に連絡できるシステムに登録させて頂いている。	消防署の指導のもと、年2回の夜間想定を含む避難訓練を実施しているほか、個別誘導の仕方を職員二人一組で訓練したり、災害時の対応を事務所に掲示し、緊急時に備えている。また、職員連絡網に自治会長や地域住民を登録し、地域との協力体制が整っている。備蓄等も確保されている。	

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの人格を尊重し、利用者の立場にたった言動、言葉づかいに十分注意している。	利用者一人ひとりの尊厳や権利を保障し、人格を尊重することを心得ており、職員は目立たずさりげない言葉かけや自己決定しやすい言葉かけに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いを言えるよう雰囲気作りをしたり、言葉では意思表示できない場合でも、その表情やしぐさから気持ちを理解する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りその人らしい生活が送れるよう、その人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度訪問美容業者に来てもらい、希望者にヘアカットをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き、下膳をしてもらっている。	旬の食材や近所からのおすそわけの野菜を取り入れ、管理栄養士による献立メニューをアレンジし、栄養バランスに配慮した献立を作成している。糖尿病食や刻み食など個々に合わせて調理している。できる範囲で後片付け等を一緒に行い、利用者の残存機能を活かしたおやつ作り等をし、食事を楽しむ環境づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を日誌に記入し、必要時には、水分量を経過記録に記入して、職員間の連携に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きを実施している。本人の能力に応じて介助している。		

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から、パターンを把握し、声掛けや誘導をして、トイレでの排泄に向けての支援に努めている。	利用者の排泄パターンを記録し、生活リズムに沿った声掛けや誘導を行っている。オムツやパット等を使用している場合でも、出来る限りトイレでの排泄に向けた支援に取り組んでいる。排泄失敗時にはプライドや羞恥心に配慮し、人目に触れないよう、さりげない声かけ等に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘な利用者様には、水分を多く摂っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタル実施してから、入浴している。又、その日の体調を確認し、意志を聞いてから行っている。	入浴は午後の時間帯とし、利用者の意思に配慮しながら週2~3回支援している。入浴拒否利用者に対しては声かけを工夫しながら誘導する等、柔軟な支援をしている。個々のペースでリラックスして入浴出来るよう支援をしている。重度の利用者においてはリフト浴での支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お経を唱えてから休んだり、リビングでテレビを観てから休んだりひとりひとりの習慣で休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師管理のもと薬ファイルを作りひとりひとりの薬の内容を理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアを受け入れ、歌や楽器演奏などを楽しんでいる。又、居室でお経を唱えたり書き物をしたり、好きな事をして生活を送っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、近くのみかも公園へ散歩に出かけたり、花見に車で出かけたり、中庭でおやつを食べている。	利用者の希望により、ホーム周辺の散歩や併設の小規模多機能ホームと合同で、近隣公園や道の駅へのドライブ・お花見・ショッピングモールでの外食や買い物等に出掛けている。利用者の意欲や自立を保つために行きたい場所への外出支援に取り組んでいる。	

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で預かり管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時には、家にかけることができる。かける援助もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には、レクレーションの写真を掲示したり、季節の花や植木をおき四季を感じられる場所づくりをしている。	リビングは明るい空間にオープンキッチンや畳のスペースが配置され、季節感のある飾り付けがされている。中庭が眺められ花壇の植栽を楽しんでいる。清掃が行きとどき、温度や湿度、換気も適切に管理されており、不快な臭い等もなく快適な住空間が提供されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	併設の良さを生かして、利用者は思い思いにどちらへも行き来し、過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはエアコンと洗面台が備え付けられている。又、今まで使用していたタンスや時計などを持ってきて頂いている。	居室からは坪庭の季節に応じた木々が見られる。エアコンと洗面台が備え付けられ、家族の協力により、馴染みの品々が持ち込まれ、思い出の写真・飾り等思い思いの装飾を楽しみ、居心地良い居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には、手すりが設置しており安全に配慮している。		